

たっけんカップ振り返り

U-12監督 野田 侑成

■10月4日（土曜日）1日目

・1試合目vs.伊豆

10-0 勝ち

この学年は昨年度悔しい思いをした学年でもあり今大会は少しでも成長した姿を披露する事。静岡というユニフォームを着て戦う事に責任を持ってプレーすることを伝え臨みました。

初戦はたっけんカップ初出場の選手も多い中、1ピリオド目から集中を切らさずに素晴らしいゲーム運びをしてくれた。特に韓国遠征に参加したメンバーの成長（戦う基準）が見れたことが非常に良かった。

・2試合目（担当 杉浦）

vs.磐田

2-0 勝ち

1stピリオドではシュートチャンスは多く作れていたが、相手の体を張ったディフェンスやシュートまでが1テンポ遅かったりしてゴールへつなげることができない展開が続いた。2ndピリオドではサイドを突破して折り返しから1点を取ることができたが、全体的に選手が内側に集まってしまい自分たちでプレースペースを消してしまっていた。3rdピリオドでは1対1のチャンスを作るも決めきれない展開が続いた。試合を通して攻める機会は多かったが、後ろのリスクを忘れることもあり、相手にも決定機をいくつか許してしまった。

・ 3試合目（担当 杉浦）

vs.焼津

0-3 負け

1stピリオドは前線の選手の動き出しや、体を張ったボールキープが足りなく、相手の前からのプレッシャーに押され、ただ前に蹴るだけの展開となってしまう。ただ、守備の選手が体を張ったプレーで失点をする事なく終わることができた。2ndピリオドでは相手陣地に押し込む展開となったが、ゴール前でのシュート精度、シュートのタイミングが悪く決定機を決めきれない展開となった。相手のフリーキック1本にやられる悔しい内容となった。3rdピリオドでも2ndと同様にフィニッシュが悪く点が取れない展開となった。残り半分から2－4－1に変更し、両サイドからの突破を目指したが、片方のサイドに寄ってしまうことが多く、幅を使った攻撃ができなかった。攻撃に重点を置いた分、守備が薄くなってしまい2失点をしてしまった。両サイドを広く使うことや、守備のバランスの調整等ベンチからの指示を的確に選手に伝えることが足りなかったと感じた。

■10月5日（日曜日）2日目

上位トーナメント

・ 1回戦vs.清水

2-3 負け

初日2位通過という事で清水トレセンとのゲーム。相手はほとんどが県トレセンに選ばれるような選手が多く、難しい試合が予想された中で、1ピリオド目に先制されるも、今回唯一のアカデミーから選出された選手のゴールで追いつくも、1ピリオドラストプレーにて失点。1-2で終了し2ピリオド目に。2ピリオド目は試合の入りも良く静岡ペースで試合を進める中

で同点に追いつく事に成功。その後も決定機を2度決めきれず、自陣でのミスにより失点。3ピリオド目も白熱した強度の高いゲームを繰り広げるもそのまま試合終了。素晴らしいゲームを見せたが競り負け敗退となった。

・順位決定戦vs.藤枝

3-1 勝ち

清水に負けてしまい連戦での試合という身体的にもメンタル的にも難しいゲーム。案の定さきほどの試合が嘘のかのように簡単に失点。

2ピリオド目より喝を入れもう一度チームとして責任を持ち一人一人の成長に繋がるゲームをする様、ミーティングにて伝え試合に臨む。なんとか3得点を奪い逆転勝ちを収めた。

・順位決定戦vs.島田

1-4 負け

最終試合。出場時間が短くなってしまっていた選手を中心に出場。

この大会での出場ができ、レベルの高い公式戦でプレーできた事は今後の成長に繋がると感じる。

ただ大事なところで身体を当てれない。五分五分のボールをマイボールにできないなど細かいところに課題が残る。

最後は力尽き失点を重ね終了。最後に弱さが出たゲームとなった。

【総括】

たっけんカップを通してまずは指導者としてたくさんの学びや経験をさせて頂いた事に感謝致します。

普段、一緒にプレーしている選手ではないが、試合を重ねる度に各々の特

徴を理解し個々を活かしながらチームとして試合できていた事が見ていてとても逞しく感じました。

清水戦で特に感じたことが、能力の高い相手に対しても戦える事。ただ一点の大事さを痛感するゲームとなりました。

なんとなく外す決定機。これぐらいでいいだろうという 1st DF。受ける前の準備。数センチのポジショニング。大事な場面で普段の意識・積み重ねがでる事を改めて感じました。

通常練習より甘さを無くす。隙を無くすための努力をしていきたいと思います。負けたからこそ気づけたこと。より選手達と共に次ステップに向けて取り組んでいきたいと思います。

選手達にとってこの大会が今後のサッカー人生において少しでもプラスになってくれると思っております。